

本の紹介 山陰中央新報社編「鉄のまほろば -山陰 たたらの里を訪ねて-」2016.5.25.

ご存じだったら すみません ご参考になれば

地方の新聞社が出版する本の新聞広告欄「ふるさと発見 新聞社の本」に 山陰中央新報社編

「鉄のまほろば ~山陰たたらの里を訪ねて~」が「今も残る日本遺産のたたら製鉄。山陰を中心に訪ねる」の紹介文とともに掲載されているのを見つけ、「鉄のまほろば」「今も残る日本遺産 山陰たたらの里を訪ねて」の紹介文に魅かれて、神戸の駿々堂書店を覗くと、金属の書籍棚の隅っこに置かれているのを見つけました。

「国のまほろば 大和」「北のまほろば 津軽」など「まほろば」の言葉には なんと心地よい響きがある。深く考えたことはないが、素晴らしいとか うるわしい、豊かななどのセンター的な地域や場所をさすのだと思っていました。

「大和は 国のまほろば
たたなづく 青垣山ごもれる 大和し 美しい
古事記 倭建命
司馬遼太郎 街道をゆく 41巻
「北のまほろば (津軽)」



◆ ふっと沸いた疑問「まほろば」が意味するのは なになんだろうか ??

ちよつと「まほろば」の言葉が気になって 辞典を調べると 国語辞典には「まほろば」の言葉は見つからない。ほかの辞典で記載されていても どれも「まほら」あるいは「まほらま」に同じと記載されているだけだという。もちろん 漢字表記もない。語源はよくわからないのだという。

「まほろば」がさす意味は「素晴らしい場所」「住みやすい場所」を意味し、美しい日本の国土とそこに住む人々の心をたたえた古語 だという。

「物事が完全であること」などの意味がある「まほ (真秀)」に場所を意味する接尾語「ら」がついて

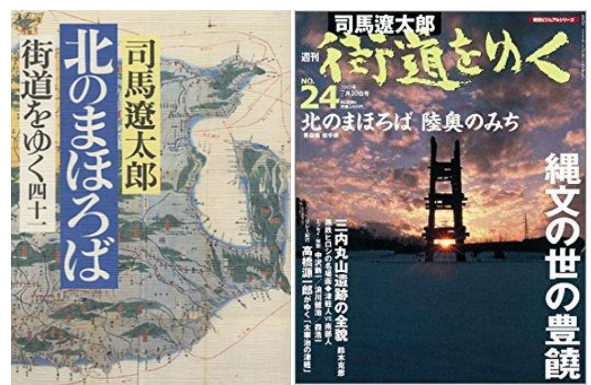
「まほら」となったものが転じて、「まほろば」や「まほらま」という言葉になったとされています

そこに住む人たちの心をたたえた古語だという。この「まほろば」の言葉の中にも「縄文の心」が根底にあると知って びっくりしました。

そして 「鉄のまほろば」とは「地域と共にそこに住む人たちのたたら製鉄を通じた営み」を称えて使う言葉なんだと。

産業・文化・歴史・交流など 鉄を通じたあらゆる人々の営みをたたえる視点がこの「まほろば」の言葉にある。

ふと「和鉄の道・Iron Road」の言葉にこめた思いと同じで、何とはなしに魅かれるのも、この視点なんだと。



◆ 山陰中央新報社編「鉄のまほろば -山陰 たたらの里を訪ねて-

この本の紹介文には「鉄のまほろば (山陰)に今も残る日本遺産 山陰たたらの里を訪ねて」と書かれている。

地方新聞社が出版した本で、新聞に掲載された現地ルポの特集記事をまとめたもの。出雲・参院地方に密着した新聞社がまとめたたたら製鉄の視点。興味津々で 参考にもなるし、ぜひとも読みたい。

ラッキーにも書店にありましたので、さっそく買い求めました。

手にした表紙の帯に「日本遺産『たたら』 全貌ここに！」の文字が躍っている。日本遺産とは、地域の歴史的魅力や特色を通じ、我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として認定して、有形・無形の様々な文化財群を総合的に活用するもので、2016年4月「出雲國たたら風土記 ~鉄づくり千年が生んだ物語~」が日本遺産に登録されたという。

この本の前書きには

『千年以上かけてこの地域に住み続けた人々が、ひとつずつ、丁寧に作り上げてきた景観や、たたらに関わる先人たちの足跡を訪ねた今回の企画は、地域の誇りを再確認する作業でした。中国山地で行われてきた砂鉄採取、木炭製造、食糧生産、製鉄とその運搬という地域の素材を活用した複合的な営みは、人口減少が続き、地方創生が叫ばれる現代の道しるべになるのではないか。そんな期待を胸に私たちは2015年1月に「鉄のまほろば」の連載をスタートさせました』とこの本のタイトルに「鉄のまほろば」とつけられた視点がきっちり記されていました。

今 グローバル・中央中心の日本社会が危機を迎え、日本社会の中に、里山資本主義などと呼ばれる地方循環型経済の組み込みが求められる時代。 たたら製鉄が山陰各地で千年をかけて、築いてきた営みが現代を生き抜くヒントがこの本の中に力強く描かれている。

たたら製鉄の全貌とともに、今まで気が付かなかった現代の通じるヒントなど 現地に精通した記者たちの訪問取材を通して 写真・図表と簡潔な文で分かりやすくまとめられた記事 50篇一つ一つについつい引き込まれてゆく。

私自身取り上げたものもあるが、知らなかったことも多く、その一つ一つの記事タイトルからも記事の視点が読み取れるので、参考にインターネットに掲載されている山陰中央新報社「鉄のまほろば」と本書の目次から掲載記事タイトルを拾い出しました。 山陰の人々の営みに今も根差しているたたら製鉄の時代を超えたおおきさを読み解くおすすめの本の紹介です。

■ internet 版: 鉄のまほろば: 海の総合商社 たたらと回船で時代築く より

<http://www.sanin-chuo.co.jp/shashin/modules/news/article.php?storyid=553097274>



夕日に浮かんだ笠ヶ鼻東側の百済浦。海岸近くにたたら場があった時代には、砂鉄や木炭を運んだり、出来上がった鉄を各地へ送ったりする船が行き来した=大田市鳥井町鳥井



大田市内のたたらと回船業者の母港

大田市の岩見銀山遺跡が世界遺産に登録され、その繁栄ぶりが広く知られている。太田市周辺は江戸後期から明治初期にかけて、久手、鳥井、和江など、大田市内の港を拠点とする回船業者の名が数多く並び、これら、石見の回船業者は『海の総合商社』・鉄と海で栄えた姿が浮かび上がってきた

■ internet 版: 鉄のまほろば: 地形改変・於保知盆地編 歳月かけた大地の創造物 より

<http://www.sanin-chuo.co.jp/shashin/modules/news/article.php?storyid=555721274>



鉄穴残丘が点々とする於保知盆地。鉄穴流しによる地形改変の壮大な営みを感じさせる=鳥根県邑南町高水の町有宿泊施設「いこいの村しまね」から



香木の森の裏山に転がる、鉄穴流して出た石=鳥根県邑南町矢上



山を崩し、生活空間を切り開いてきた先人たち。鉄穴残丘、田畑、ため池からなる景観は、数百年の歳月をかけて人の手で造り上げた大地の創造物だった。

山陰中央新報社編「鉄のまほろば -山陰 たたらの里を訪ねて-」 目次

- ◆ たたら文化は日本の誉(田部長右衛門)
- ◆ 語り継ぎたい「たたら文化」
- ◆ 中国地方に残る製鉄文化

- (1) 奥出雲・鉄穴残丘 大地に刻む特異な景観
- (2) 奥出雲・棚田 採掘後も豊穡の地に
- (3) 奥出雲・仁多米 鉄穴流し跡うまさ育む
- (4) 日刀保たたら(上) 大地の恵みが支える
- (5) 日刀保たたら(中) 先人の技と知恵息づく
- (6) 日刀保たたら(下) 厳か 経験と勤の作業
- (7) 角炉 終戦で炉の火落とす
- (8) 三沢の鉄穴流し 先人の営み誇り育む
- (9) 菅谷たたら 現存高殿未来に伝承
- (10) 木次線 鉄路に託した地域の未来
- (11) 岩浪 不味に粋なもてなし
- (12) 和牛 鉄師が品種改良主導
- (13) 海と山のたたら 田儀の歴史住民がつなく
- (14) 金屋子神社(上) 安全祈り はだし参り
- (15) 金屋子神社(下) 石見にも信仰の広がり
- (16) 都川の棚田 石垣に鉄穴流し技術応用
- (17) 井野の棚田 鉄穴流しが生んだ1千枚
- (18) 笠松峠の石畳路 重い砂鉄安全に運搬
- (19) 黒い浜(大田) 浜辺に残るたたら記憶
- (20) 海の総合商社 たたらと回船で時代築く
- (21) 和木の砂丘開拓 鉄穴流し応用農地造成
- (22) 江の川 水運生かし一帯繁栄
- (23) 久喜・大林銀山 銀鉱石の採掘支える
- (24) 出羽鋼 脈々と息づく刀工の技
- (25) 大和たたら 恩恵に感謝石碑建立
- (26) 大板山たたら 石見人が礎世界遺産に
- (27) 鉄師伝えた祭り 時を超え地域で伝承
- (28) 伯耆の鉄師・近藤家 御三家の生産量一時しのぐ
- (29) 都合山たたら跡 奥日野顕彰の起点に

- (30) 印賀鋼 高い品質全国に名声(10/13)
- (31) 隠岐の島・那久鉄山 製鉄技術者雲州から招く
- (32) 地形改変・斐伊川編 鉄穴流しで平野広がる
- (33) 地形改変・於保知盆地編 歳月かけた大地の創造物
- (34) 地形改変・弓浜半島編 日本最大級の砂州形成
- (35) 松江藩と鉄師 森林 資源の「持続」に工夫
- (36) たたらとそば 製鉄に伴い栽培拡大
- (37) ナラ枯れ 山と人の暮らし切り離され
- (38) ポストたたらの木炭 品質の高さで市場席巻
- (39) たどん 小さな「暖」今でも重宝
- (40) 足立美術館 始まりは木炭の輸送
- (41) 鉄師の社会貢献 私財投じて小学校開設
- (42) 石見から出稼ぎ たたら終焉で炭鉱へ
- (43) 愛知の金屋子 トヨタ発祥の地に鉄の神
- (44) 継承された技 廃絶の荒波越え脈打つ
- (45) 刀剣女子ブーム 魅力を伝え文化継承
- (46) 三条刃物 切れ味支える「安来鋼」
- (47) ハガネの町 「誠実美鋼」の精神継承
- (48) 和鋼博物館 郷土の遺産今にとどめる

◆ **これが たたら だ!!**

たたら製鉄の仕組み
絵巻物で見るたたら工程
地下3メートルに広がる床釣
1972年まで砂鉄採った三沢

- ◆ 岩見を築いた たたらと水運
- ◆ インタビュー
- ◆ 山陰 たたら製鉄の歴史
- ◆ 日刀保たたら操業とこれからの日本文化
- ◆ 金屋子の来神の来歴
- ◆ たたらふるさとを訪ねて 1~25

■材料関係の専門書が多く出版され始めた 変化の兆しか??

久しぶりに三宮の書店の理工学書の棚を見てびっくり。かつて学んだ金属・溶接の棚には ここ数年ほとんど新しい本がなく、他の分野の本に追われて、寂しく思っていました、上から下までびっしり新しい本が並んでいました。

ハウツー物や専門書というより解説書が多いのは時代の流れかもしれませんが、そんな本に混じって、新しい視点の専門書や新分野の本がいくつも。学際的な本がもっと出てくれば、時代が大きく変わるのにと。・・・

でも うれしくなりました。

探していた「鉄のまほろば」の本もここで見つけました。

色々教えていただいた先生の本・学会編の新刊本も棚にある。

新素材・機能材ブームが下火になって、金属材料に興味を持つ若者がどんどん少なくなっていると聞いていましたが、新しい風が吹き始めていることにうれしくなりました。

かつて、産業の米と言われた金属素材・鉄。

その広がり大きさが また、人々を引き付け、

新しい時代を開いてくれることを切に願う。

地方新聞社出版のふるさと本「山陰中央新報社編「鉄のまほろば -山陰 たたらの里を訪ねて-」 がこの本棚の一角にあったのも、そんな書店の視点でしょうか・・・



神戸三宮の本屋 理工学書「金属工学」の棚で